

Bコース①【介護と仕事の両立推進事業】

取組の実施状況

企業名	株式会社肉の佐藤
所在地	東京都杉並区和田 1 丁目 5 番 11 号
業種	(I) 卸売業・小売業
常用労働者数	9 人
事業内容	肉卸
ホームページ	https://29-sato.com/
1 ニーズ調査	
① 実施日	令和 7 年 11 月 17 日
② 方法	アンケート用紙全従業員に手渡し配布
② 回収率	対象者（都内勤務全従業員） 9 名のうち回収数 9 名 回収率 100 %（回収数／対象者）
④調査結果 概要	（調査により明らかになった課題） 1. 現在の従業員の介護状況、介護対象者の有無について 現在、日常的に介護を理由として就業制限を行っている従業員は限定的一方で、高齢の親族（親・配偶者等）を抱える従業員が一定数存在 従業員の年齢層が比較的高く、「介護は将来的に誰にでも起こり得るもの」との認識が共有されている。現時点では顕在化していないが、潜在的な介護リスクは高い状態 2. 今後の従業員の介護見込みについて 今後数年以内に、介護が発生する可能性を感じている従業員が複数存在 特に、突然の入院・要介護認定配偶者・親の体調悪化など、突発的な介護開始への不安が強い。介護が始まった場合、現行のフルタイム・長時間労働を継続できるか不安という声が多い。 3. 就業規則・規程内の介護関係制度に関する認知状況について 介護休業・介護休暇などの制度について、**「制度があることは知っているが、内容はよく分からない」**という認識が中心。特に不明確な点として、どの段階で会社に相談すべきか、どこまで配慮してもらえるのか、給与・処遇への影響が挙げられている。就業規則は存在しているが、「自分が使える制度」という実感が乏しい。 4. 介護と仕事の両立に関する不安について 突然休んだ場合、業務が回らなくなることへの罪悪感。現場作業（仕入・加工・配送等）への影響。体力的負担と介護負担の両立。食肉卸売業の特性上、代替がききにくい業務が多く、周囲への影響を強く意識している。介護が長期化した場合、「退職せざるを得ないのではないか」という不安も一定数存在。 5. 介護が続いた場合の望ましい働き方・社内制度について 従業員が望んでいるのは、勤務時間・日数を段階的に調整できる働き方 体力面を考慮した配置・業務内容の見直し。一時的に働き方を変えても、元に戻る安心感。制度の新設よりも、「相談できる」「理解してもらえる」環境づくりを重視する傾向。介護と仕事を完全に切り離すのではなく、無理のない形で働きたいという意向が強い （抽出される主な課題） □現時点では顕在化していないが、介護は確実に中期的経営課題となる □高齢従業員が多く、介護と体力低下が同時進行するリスクがある □介護制度の存在は認識されているが、具体的な利用イメージが不足 □突発的な介護発生時の相談ルート・会社対応が明確でない □業務の属人性が高く、休業・時短が現場に与える影響が大きい □周囲への遠慮・評価への不安から、制度を使いにくい心理的ハードルがあ

	る ☐ 長期介護を想定した段階的な働き方の選択肢が不足 ☐ 制度整備だけでなく、業務分担・配置・風土の見直しが不可欠			
2 プロジェクトチームの設置及び運営状況				
① 設置日	令和7年 11月 11日			
②メンバー	総計 2名（うち都内勤務の従業員1名） （メンバー内訳）社長、業務スタッフ			
③運営状況	開催日	開催時間	検討内容	参加者数
	11月11日	11:00-11:30	活動内容及びスケジュールの確認	2名
	11月22日	15:00-15:30	調査結果概要説明、取組案の提示	2名
	12月4日	11:00-11:30	取組案についての意見交換、確定	2名
3 策定した取組計画（内容及び取組時期）				
令和8年4月～ 定期的な個人面談の実施（年1回程度）				
令和8年6月～ 介護と仕事の両立に関する研修の実施（年1回程度）				
4 経営者・管理職への体験型研修の実施				
有り・無し（いずれかに○）				